



三田とお別れにあたって  
顧問教諭石関力太郎

いよいよ三田高ともお別れの時が来た。私の教職四十二年のうち、その半分以上は三田で過ごした。私の後半は三田高の諸君と共にあったといつてよい。ともあれ、お世話になった三田校、いろいろな思い出が断片的に私の脳裡をよぎる。卒業生のあの顔、この顔、様々な出来事など、お別れにあたって、それらのいくつかを書いて見たい。

数年前、卒業式の折、何気なく卒業生に「何年生れ」と聞いたことがある。「昭和十八年生れです」という答、「オヤッ」と思った。私が本校に着任したのは正にこの年であった。東京オリンピックの前年、国をあげて、戦後最大の国際的行事を迎える準備に大わらわであった。都内は戦前の名残りが次々と消え、大きく変わりつつあった。建物から道路、新幹線まで、東京は活気に充ちていた。そのような変貌の中で、当時の三田高の周辺はどうであったろう。三田通りを都電が走っています。赤羽橋がその交差点になっていた。行交り電車のガタン、ガタンという独特な音が授業中にも聞えて来たものである。三田通りから学校の方に曲る角には四階建の三田警察署があり、今の国際ビル跡には電車通りに面して登記所があり、二階建モルタル造りの平べったい済生会病院があった。広い敷地の病院の廻りには明治大正時代の面影をもつ職員宿舎が幾棟が散在していた。学校への坂道の反対側には未だ三田シャトーはなく、石垣が続く、その上田高の諸君と共にあったといつてよい。ともあれ、お世話になった三田校、いろいろな思い出が断片的に私の脳裡をよぎる。卒業生のあの顔、この顔、様々な出来事など、お別れにあたって、それらのいくつかを書いて見たい。

余名の在校生がおり、そのほとんどが五時二十分の始業に駆けつけるので歩道の状況は深刻なものがあつた。ある年の生徒総会で保険局の人に南側歩道を、本校生徒は北側を歩くよう申入れをすべきだといふ発言があつた程である。私は着任と同時に生徒部に属し、生徒会、クラブ、行事と授業以外で生徒と接触することが多かった。当時の諸君は自己の役割責任をよく認識し、授業時間をつぶさず、すべて放課後残つてよく動いてくれた。職員間で三田の子は其の場になるとよくやってくれると話合ったものである。とりわけ、夏季施設は今だに忘れ得ない行事であった。昭和三十三年から学校行事の一つとして毎年行った。海は個人でも職場からも容易に行けるといふことで山に行くことになった。山を登し、経験豊かな若い須藤、廣西先生があられたこともその理由である。お一人は三月の休みに残雪を踏み分け、実路に當つてくれ

た。八ッ岳(一回)、南アルプス、中央アルプス等、年度初の廻りには明治大正時代の面影をもつ職員宿舎が幾棟が散在していた。学校への坂道の反対側には未だ三田シャトーはなく、石垣が続く、その上田高の諸君と共にあったといつてよい。ともあれ、お世話になった三田校、いろいろな思い出が断片的に私の脳裡をよぎる。卒業生のあの顔、この顔、様々な出来事など、お別れにあたって、それらのいくつかを書いて見たい。

は女子用のものは各階にあつたが、男子用は急造のものがあつたように一階昇降口に一ヶ所のみ、かつて女子系であつたことを物語っていた。(三十八年から男女同数入学)暖房も石炭ストーブから石油ストーブに変わった。現在金館暖房、また給食は各クラスで食べた。クラス毎の大きな食器を運び、机の上で盛りつけた。現在、食堂で全校生を食す。暖房、給食共に当番がきめられ、交替で行つたが現状を見ると、かつての諸君はよくやつたが、今の諸君はそれだけ余裕がある筈だと思ふ。新校舎移転(昭和五十一年)後、富川氏(29年卒)が引継ぎ、今日同窓会まで盛りに立ててくれた。「ともがき」毎年発行(現在七号まで)既刊)十一月二十三日総会、懇親会の開催、名簿整理も着々と進んでいる。お互に多忙な毎日、母校を思うことは稀であるが、常に同窓会を考えている諸君がいることを心に留めておきたいと思ふ。

ともあれ、長い在職中、転任された先生方、若くて亡くなられた先生方、現職の方々何かがご指導をいただき、お世話になりました。職をはなれるに當つて厚く御礼申し上げます。筆をおきたい。

「おい、……君元氣かいな」といふ関西弁で、職員室に入つて来る生徒には常に声を掛けておられた石関先生が、昭和59年度をもって退職される。私は、二年前に差任、同じ英語科の教師として、また同じ学年の担任として、机を並べさせて頂いた。その石関先生とお別れに際し、私の印象を述べさせていただきます。授業の合同での会話で、先生は昭和17年以来教職の身にあられ、本校には22年間勤務された由を知りました。英語の先生ですから、戦中中ほどのような教習生活であつたか大変興味深いところです。何度か機会に、この間のお話を伺いたいと思ふ。いわば敵性語であつた英語を逸早く学習するといふ進取の気遣は、この二年間でも垣間見ることが出来ました。廊下を歩く時は背筋をピンと伸ばし、何時もワイシャツの袖にはカフス・ボタンをし、キリッとしたスーツ姿は、そんな一面の現われのような気がします。また職員旅行の際など、スポーツでいな服装でリラックスするといふ、気分転換の妙も心掛けておられました。

### 石関先生との二年間

教諭 佐久間重

休み時間には、常に生徒との会話を大切にし、英語の授業とはまた別の形で生徒とのコミュニケーションを維持され、こうしたコミュニケーションの重要な姿勢は、ただ若輩にしか過ぎない私にも、実際の言葉を使わないにしても示して頂いた様な気がしています。同僚の一人として、この姿勢に感謝すると共に、目なされると聞き、とても残念に思っています。三先生には長年におわたるご活躍、たいへんご苦労様でした。

三先生とのお別れ  
生徒会長 芦沢一明  
今般、古松校長先生、菊地教頭先生、石関先生が勇退なさると聞き、とても残念に思っています。三先生には長年におわたるご活躍、たいへんご苦労様でした。校長、教頭の両先生には、夕礼時のご訓示やさまざまな学校行事の折に、幾度となく「お別れ」を受けたものでした。個人的なことでは、私は卓球クラブに所属していることから、三先生のなかでは顧問をされていた石関先生と接する機会が多かつたように思います。クラブの時間になると、先生が汗をかきかき私たちと対戦されている姿を見て、朝しみを感ずると同時に私も思わず力がへつたものでした。



私たちが、時にこの三先生のことを思い起こしながら、今日迄のご指導の教々を胸に帯びて三田校生として一歩一歩目的達成に頑張っていく決意です。ではさようなら。